



ともに働く・生きる ～協同労働の実践～

労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団
埼玉事業本部 須賀 貴子

2025年 9 月 27 日

今日お伝えしたいこと

01.事例：森の102工房 & 森のとうふ屋さんの手づくり菓子工房

2012年7月 埼玉県所沢市
ともに働く場を目指して、森の102
(とうふ) 工房開所。
当事者主体の事業所づくり
地域づくり

02.仲間の紹介

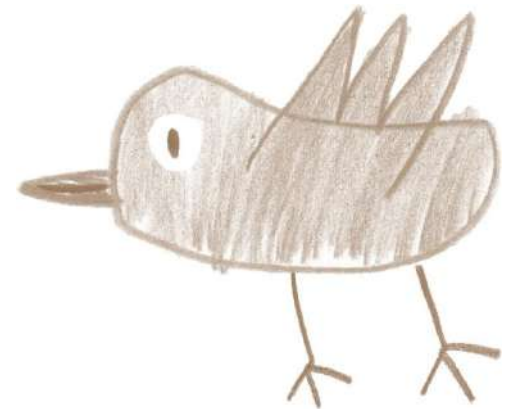
- ・一人ひとりにあった働き方
- ・選択できる働き方
- ・自ら居場所をつくる

03.私たちが大切にしていること

協同労働が大切にしている価値と可能性

04.矛盾

福祉制度を越えて
(越えたい)



事例：

森の102工房 & 森のとうふ屋さんの手づくり菓子工房

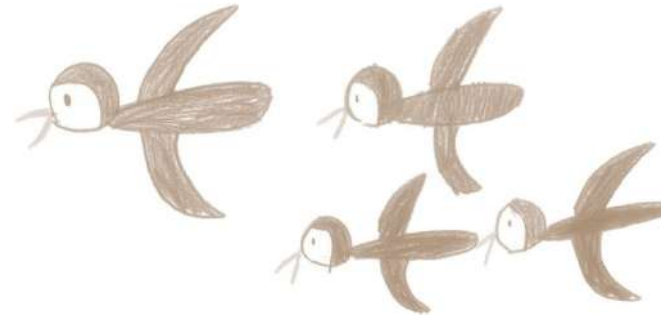
自治体	埼玉県所沢市（最寄り駅：航空公園、西所沢、狭山ヶ丘）
開所日	2012年7月15日
理念	障がいの有無関係なく、誰もが安心して働き、暮らしていける地域づくり
仕事内容	●森の102工房（とうふ製造・販売） ●森のとうふ屋さんの手づくり菓子工房(就労継続支援B型) （菓子製造・販売、農作業、手しごと、清掃、事務処理）
就労者数	就労者数70名（組合員 25名、非組合員1名、就B44名）



商品紹介



森の102工房開所



2010年 基金訓練開講

とうふや継業
×
働きたくても働けない

2013年 販路拡大路線

初めての営業活動
出口の見える赤字経営
毎週・毎月経営会議



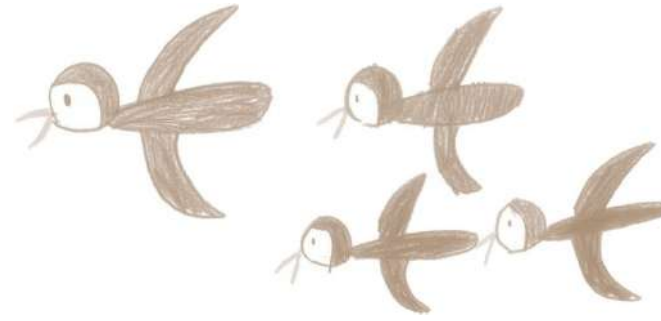
2012年7月 森の102工房開所

繰り返される開所式延期

感じ始める矛盾・・・

離れていく仲間
社会的責任・効率・生産性
の追求・・・

菓子工房 立上げ



**2015年10月 森のとうふ屋さんの手づくり
菓子工房 開所**

自慢できる職場づくり
「施設」ではなく「店舗」づくり

**2019年 高齢者施設内
消毒スタート**

とうふ工房を大幅縮小
地域の中で仕事をつくる



2017年 農福連携スタート

「自分たちの育てた大豆でとうふをつくりたい」
山田ファームスタート
狭山茶農家の援農 等々
所沢農福商消連携地域協議会
(カレイドスコーププロジェクト) 立ち上げ



**2023年 4月 conomi
オープン**

当事者主体の仕事おこし
「一人じゃないと思える居場所」

菓子工房の仕事の様子



菓子工房の仕事の様子



conomi縁日、conomiハロウィン
Handmade café、conomi art等
毎月イベントを開催



仲間の紹介

- 生活保護を受けている方
- 夫婦で精神障がいの方
- 俳優業をしている方
- 長く自宅で過ごしていた方
- お子さんが不登校気味のお母さん
- 健康に不安を抱えている方（70代以上）
- こだわりが強く、ルーティンの変更が難しい方
- 集中が続かず、すぐに他の事が気になってしまう方 などなど



仲間の紹介 ①

事業所の基礎 “ひとりの困りごと”

- 働く場の存続！
- 話し合いの中心
- 「どうしたら働きやすくなる？」
- 一人ひとりに合せた働き方
- 「困ったら、仕事おこし！」



働き方の選択



- 50代男性 外食チェーン店で勤務時代、体調を崩す。
- うつ病。ご家族も統合失調症で二人三脚の日々
- 福祉就労として菓子工房に勤務開始
- 当初から、一般就労を目標とし、事業所の組合員になることを目指す
- そして、念願の一般就労（組合員）に！
- しかしコロナの影響をまともに受け、メンタル面で落ち込み仕事ができない状況に
- 再度、福祉就労で再スタート
- そして、2022年、改めて組合員に
- 彼の状況を全組合員で共有。出勤できない日もあるが、誰も責めることなく、むしろ、彼の存在に感謝



私たちが大切に していること

話し合い・・・正直、大変です。

でも、一人ひとりが納得したり、どこかで気持ちや考えに折り合いがつかないと、よい仕事はできません。

生活や環境、価値観も異なるメンバーが集まっています。

“当たり前”や“常識”は、あってないようなもの。

だからこそ、日々考え、対話をするのです。

“主体は誰なのか？”



協同労働の可能性①



ごちゃまぜ・多様性

- 「支援する－される」の関係性を越える
- そもそも社会は“ごちゃまぜ”の状態。それを福祉が切ってしまっている状態

多様な働き方

－ライフステージ・個性に合わせて

- 働き盛り・シニア世代・子育て世代等 ライフステージに応じて価値（大切にしたいこと）はそれぞれ。仕事に費やせる時間・環境も異なれば、健康状態もそれぞれ。一人ひとり異なるライフステージだけど、それをたどることもある。だからこそ、お互い尊重することが大切
- 一歩進んだり、戻ったり。その時にあった働き方

自主性・当事者性の回復

- 話し合うということは考えること、考えることは当事者としての意識をもつこと
- “やる” 選択も、“やらない” 選択も、まずは自己の意思表示から
- 職場でできる“自己選択”。将来的には、自らの生活を自分の意思で“選択”し、豊かな人生が送れるように

協同労働の可能性②

「困ったな」「あったらいいな」の実現

- 制度事業をしていると、その枠に当てはまらないコトやヒトが沢山。それを、事業の枠を越えて行っていく（社会連帯活動）



地域づくりの担い手

- 「地域の中で仕事をつくる」
- 仲間の仕事（労働）を社会化
- 地域共生社会をつくっていくのは当事者。そのきっかけをともにつくっていく



矛盾 福祉制度を越えて（越えたい）

- ともに働く・ともに働く仲間
- 全就労者による運営会議、仕事おこし会議、学習会の実施

とはいいつつも、今の社会は……

- 制度は分断させる

障害者 - 健常者 / 利用者 - 職員 /

給与 - 工賃 等々 言葉一つとっても分断をうむ

- 制度の枠に当てはまらないと、働けない、生活できない
⇒ 生きることや労働の価値は変わらない（等しい）
- ともに学ぶ、ともに遊ぶ、ともに食べる、ともにつくる……
“ともに”の経験を



ありがとう ございます

「矛盾に幸あれ！」（「コトノネ」vol.42）

白黒はつきりさせない（できない・させたくない）部分こそ、本当の「豊かさ」や「価値」があるのではないかな。

その価値を大切にするのが「協同労働」であり、「協同労働」がその価値を気づかせてくれる。

森の102工房

森のとうふ屋さんの手づくり菓子工房 conomi



@MORINOTOUFUYASAN